

● 事例紹介 ●

宮崎大学異職種業務体験研修について

国立大学法人宮崎大学

はじめに

平成一五年一〇月に宮崎大学と宮崎医科大学は統合して、教育文化学部、医学部、工学部、農学部、農学部の四つの学部からなる新宮崎大学を創設し、さらに平成一六年四月には国立大学法人宮崎大学になった。旧宮崎大学（木花キャンパス）と旧宮崎医科大学（清武キャンパス）の距離は約2kmとそんなに遠く離れていたわけではないが、それぞれの大学の歴史や環境は全く違う大学であった。そのような状況の中で、住吉昭信学長は、「これからの大学は、職員一人一人が自分たちが大学法人の担い手であるという意識改革およ

び協調と結束が不可欠である。また、異なる職種間において円滑に業務を遂行するにあたり、仕事をお互いが理解し、それぞれの立場を尊重し合い、仲良くし、助け合うことができる。そのためには、職員同士が自分と異なる職種の業務を体験し、それぞれの仕事内容を認識することが必要である」との考えにより、平成一六年度から異職種業務体験研修を実施することになった。以降、毎年度、木花キャンパスの職員を清武キャンパスへ、平成一七年度から、清武キャンパスの職員を木花キャンパスへそれぞれ派遣する形式で行っている。



計算窓口での対応



看護体験（病棟）

- ・ 異職種の研修を受けることは、新たな視点で自分の業務を見つめ直すいい機会になった
- ・ 効率を上げるだけでなくサービス面に関しても対応が行き届いていると感じた。
- ・ 再診受付や精算の自動化により患者さんの待ち時間が大幅に短縮できるという利点は大きいと思った。
- ・ 受付や精算時に戸惑う患者がいるが、病院の職員が丁寧

（研修生の感想、意見）

- ・ 大学が多くの人の力によって運営され、成り立っていることが分かった。

△清武キャンパスから木花キャンパスへ
 清武キャンパスの職員を木花キャンパスへ派遣する研修は、木花キャンパスでの勤務経験のない事務職員及び附属病院に勤務する医療職員を対象として、一日の日程で、各学部等において説明を受けながら見学する形式で実施している。

研修生の実績としては、平成一七年度（二〇名）、平成一八年度（二〇名）、平成一九年度（二一名）である。

- ・ 看護師の方々のチームワークの良さ、機敏な行動が印象的で、看護師長さんの「命と直結しています。」という言葉は、改めて業務の重さを痛感した。
 - ・ 食事量、アレルギーなどに合わせて約二五〇種類ものメニューがあり、行事食や食器類など見た目へのこだわりなど細かな所まで気が配ってあり心遣いが感じられた。
 - ・ 看護師の方が丁寧かつ笑顔できめ細やかな対応を行っていたのを見て、自分自身の学生への対応が均一でなく心遣いが足りないと感じた。
- に対応しており、効率を上げるだけでなくサービス面の対応もできていた。

研修の概要

△木花キャンパスから清武キャンパスへ▽

清武キャンパス以外の事務職員、技術職員等で医学部の業務経験のない職員を対象として、医学部附属病院において一日業務体験を行うものである。

研修生の実績としては、平成一六年度（八名）、平成一七年度（二六名）、平成一八年度（二六名）、平成一九年度（八名）である。



初診受付



再診受付機前での介助

研修プログラム		研修内容	時間
(1)	病院玄関の清掃		八：三〇～ 九：〇〇
(2)	外来ホールでの初診患者対応 初診患者に対して、紹介状の有無等を聞き、診療申込み方法の説明等を行う		九：〇〇～ 九：三〇
(3)	再診ホールでの患者対応（再診受付機） 再診患者に対して、受付機の操作方法等の援助を行う		九：三〇～ 一〇：〇〇
(4)	計算窓口、支払い窓口での患者対応 診療が終わった患者に対して、会計及び自動支払機での精算の援助を行う		一〇：〇〇～ 一〇：四五
(5)	病院再整備担当主幹の話 病院再開発について、担当職員より説明を受ける		一〇：四五～ 一一：三〇
(6)	昼食 検食を体験する		一一：四〇～ 一二：四〇
(7)	病棟見学、病棟体験 白衣に着替えて、病棟見学、看護体験を行う		一二：〇〇～ 一七：一五

研修プログラム

研修内容	時間
(1) 産学連携センター 施設概要説明及び見学	八：三〇～ 九：一〇
(2) 教育研究・地域連携センター 施設概要説明及び見学	九：二〇～ 九：四〇
(3) 教育文化学部 技術棟、音楽棟、美術棟の施設及び実習の 見学	九：四五～ 一〇：二〇
(4) 事務局 事務局各部の説明及び見学	一一：三〇～ 一二：〇〇
(5) 工学部 教育研究支援技術センターの説明及び見学	一三：〇〇～ 一四：〇〇
(6) 農学部 ①附属動物病院 施設概要説明及び見学 ②附属農業博物館 施設概要説明及び見学	一四：一〇～ 一四：五〇 一五：〇〇～ 一五：四〇
③附属自然共生フィールド科学教育研究センター みかん狩り及び芋掘りの農業体験を実施 タ	一五：五〇～ 一七：一五



工学部教育研究支援技術センター



農学部附属農業博物館

(研修生の感想、意見)
 ・見学した施設のなかでは、同じ大学の中でありながら、施設名は聞いたことのあるぐらいでその業務内容までは今まで殆ど分からなかったものもあったが、実際に施設を見学したり説明を受けたりしたことで、以前より業務や状況がイメージできた。
 ・大学の中には、多種多様な業務があることに改めて驚いた。
 ・大学にはいろいろな職種があり、その一つ一つの歯車がかみ合うことでその組織が成り立っていると思うが、それを



附属自然共生フィールド科学教育研究センター (木花フィールド)

て、美術や技術の授業風景も見学することができ、医学部とは違う雰囲気を感じたことが大きかった。
 ・農学部附属動物病院は、同じ病院勤務をしているので、説明の内容が特に興味深かった。
 また、同じ病院として、抱える課題等も似ていることが多く、これからは、協力できることは協力していきたいと感じた。
 ・附属自然共生フィールド科学教育研究センターでは、みかん狩り及び芋掘りの貴重な農業体験をすることができた。

実際に目で見たり体験できたりした点が大変有意義であった。今日感じたことをこからの大学職員として仕事をする上で役立てていきたい。
 ・普段の職務では得ることの出来ない貴重な体験ができた。
 ・教育文化学部におい

最後に

国立大学法人宮崎大学では、教育職員、事務職員、技術職員、技能・労務職員、教務職員、看護職員及び医療職員と多様な職種にわたり、約二〇〇〇人の職員がそれぞれの職場で働いており、それらはお互いに関連しあって、大学という組織が成り立ち、機能している。これらの職員で構成されている本大学が、今後より一層発展していくためには、情報や課題を共有し、共に改革に取り組みという意識を持つことが極めて重要である。
 異職種業務体験研修は、平成一六年度から毎年行っているが、参加した職員は、短い時間ではあったが、少しでも違う立場の職種を体験することにより、他職種に対しての視野が広がり、大学への帰属意識と協調性を高めることができた。
 今後本研修の充実を図りながら、実施することとしている。